



心臓に穴?! 手術は必要? 生まれつきの心疾患の治療とは



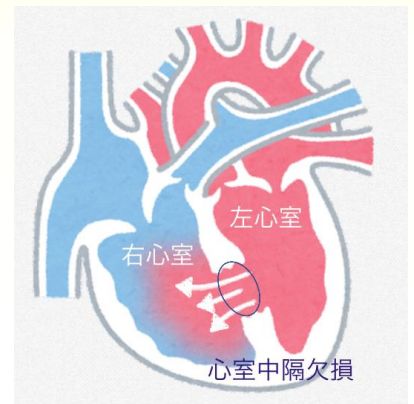
生まれつき心臓に何らかの異常がある病気を先天性心疾患といいます。およそ100人に1人の赤ちゃんが生まれたときから心臓に何らかの問題を抱えていることとなります。先天性心疾患にはいろいろな種類があるので、治療の必要がないもの、自然治癒するものから、すぐに手術が必要なものや重症なものまでさまざまな病態があり、治療の時期や方法は様々です。日本全国では1年間に約9000件の先天性心疾患の手術が行われています。

手術が不要と診断されても注意が必要です

最も多い先天性心疾患は心室中隔欠損症で心臓の中の左心室と右心室を仕切る壁に穴が開いています。

(図1) 大きな穴の場合は、多くの方が乳児期から幼児期に手術でこの穴を塞ぎます。

先天性心疾患では、手術が不要な方でも歯科治療や他部位の手術時、怪我などでは感染性心内膜炎と言って心臓に菌の塊ができて重症化することがありますので注意が必要です。



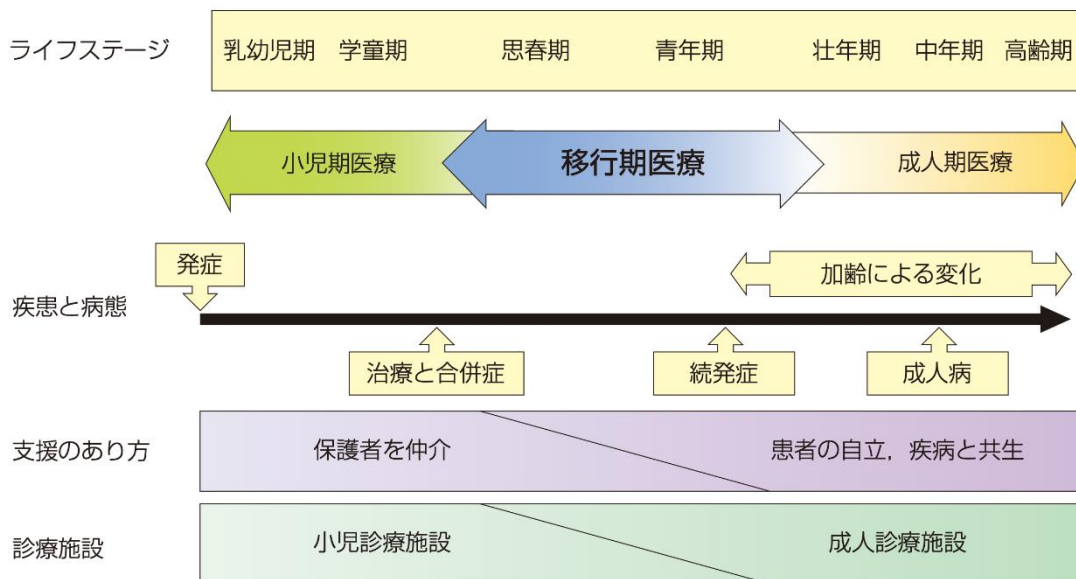
先天性心疾患は子供の病気” というイメージはありませんか？

実は成人になられた先天性心疾患の患者さんが日本全国に約50万人、滋賀県内に約5600人いらっしゃるとう推定され、今後も更なる増加が見込まれます。実は子供の頃に心臓手術を受けて大人になられた方も、先天性心疾患と診断されたけれど手術が必要でなかった方も、年齢とともに手術を含めた治療が必要となることがあります。ですから、先天性心疾患を有する方が適切な時期に適切な治療を安心して受けていただくためには、一生涯を通じた経過観察が必要です(図2)。残念ながら、小児科から成人の循環器内科への移行がスムーズにいていかなかったり、学校や仕事、家庭など忙しく、定期受診が途絶えている方が少なくありません。

子供から大人まで、笑顔で暮らせるお手伝いを

当院の心臓血管外科では滋賀県では数少ない先天性心疾患を専門領域とした医師が在職し、心疾患を抱える患者さんを診療しています。滋賀県は全国で2番目に子どもの割合が高くなっています。子供から大人までの先天性心疾患を有する方が笑顔で暮らせるようにお手伝いさせていただきたいと思います。お気軽にご相談ください。

一生にわたる医療の中で、ライフステージに応じた「移行医療」



「先天性心疾患の成人への移行医療に関する提言」から抜粋



市立大津市民病院

心臓血管外科

診療部長 宮崎 隆子